

香川菊池寛賞は、香川が生んだ文豪「菊池寛」の功績を称え、香川にゆかりのある新人作家を発掘する事業として創設されました。そして今年1月、栄えある第59回香川菊池寛賞に本学卒業生の光岡和子さんの作品「幸子」が選ばれました。少年院という舞台設定などが評価された本作品は、初めての応募での受賞だそうです。光岡さんにインタビュー&おススメの本も紹介していただきました。



幼児教育学科
第I部 卒業生
光岡 和子 さん



『戯れる江戸の文字絵～
十返舎一九「文字の知画」
よみがえる大衆の笑い～』
楊暁捷 著、板坂則子 監修
マール社

『十返舎一九』という名前をご存知でしょうか。「じっぺんしゃ いっく」と読み、江戸時代後期の戯作者であり、絵師であり、滑稽本「東海道中膝栗毛」の作者でもあります。そう、歌舞伎でも上演されるあの「弥次さん・喜多さん」で有名な作です。そして、執筆の収入だけで生活をするのができた最初の人物とも言われています。

今回紹介する本は、『戯れる江戸の文字絵 十返舎一九「文字の知画」よみがえる大衆の笑い』です。今から二百年程前の十返舎一九の滑稽本『文字(もんじ)の知画(ちえ)』という本

を現代語読みにしてくれているものです。

この『文字の知画』は、商人や町人、花街の様子から犬まで、江戸時代の市井の日常を文字だけでなく、絵に同化させた文字絵で書き記しています。十返舎一九には、文才と絵心があったからこそ描けた本なのでしょう。文字絵と聞くと、すぐに思い浮かぶのは『へのへのもへじ』でしょうか。そのイメージで本を捲ってみてください。

江戸時代の文字絵って秀逸ですよ。絵の中に、複数の文字が位置関係無く鎮座しています。当然ですが筆で描かれているので、絵と文字のコラボに違和感を感じないのです。その文字を読み解き正しく並べると絵の説明が現れます。中には明治時代以降は使われなくなった平仮名の異体字「変体かな」も使われているので、かな書道の教本を片手にその字を調べながら読み解く過程は、まるでスパイ物の暗号を解いているような気分になります。

普通に文字を追うだけでなく、ちょっと頭を捻ったり、目を細めたりと読み解くのに忙しい思いをするかも知れませんが、文字絵+川柳+狂歌+短歌で読む江戸の市井の生活は、コミカルでクスッと笑いがでるかも知れません。

Q. 短大時代の本に関する思い出は？
A. 実習の前は先生の研究室にある図書を借りていました。もっと、図書館を利用しておけばと今になって思っています。

Q. 小説を書き始めたきっかけは？
A. 小説は40歳を過ぎてから書き始めました。全国転勤族の夫に帯同し、旅行では分からないその土地の生活や人や方言があり、引越すたびに戸惑いました。それらに慣れた頃に次の土地へへと繰り返しているとき、この経験を小説にできたら面白いのではと思ったのです。

2024年 4月 開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



開館日 (Yellow) ...閉館日 (Green) ...閉館日 (館内整理日・学内行事日等) (Light Green) ...休館日 (Pink)

開館時間...9:00~17:00 臨時の休館・時間変更等はHP等でお知らせします。

附属図書館オリジナル Web 香川短大HP→附属図書館→附属図書館オリジナルWeb

<http://lib.kjc.ac.jp/csp/car/in/hp/CARhpTOP.csp>